第二講　傍線部理由説明問題

傍線部の問題の２大パターンが前回の「傍線部説明問題」と今回の「傍線部理由説明問題」です。ではまずその形式から確認しましょう。その設問形式は次の通り、

傍線部～とあるが、なぜか　説明せよ。
or
その理由を

というものです。この問題に対してもやはり一定のアプローチの仕方があるので、今回はその設問解法を学びましょう。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

傍線部理由説明問題解法

―「なぜか」の解答プロセス

①「文構造」を分析する。
・文法的構造
・論理的構造

↓

②「ポイント」を把握する。
・A→X
（飛躍している部分）

↓

③「解答の根拠」となる文と対応させる。
・Aの説明
・「論証」のフレームワーク

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Ⅰ 「A→x」の発見

論証が必要な命題（文）には「A→x」という飛躍した部分があります。まずは、どこに飛躍があるかを見つけましょう。

> ① **主語（主部）→述語（述部）に飛躍がある場合。**
>
> ② **修飾部（接続部）→被修飾部（被接続部）に飛躍がある場合。**

※文構造（係り受け）を分析する中で、構造的につながっているが、意味的につながっていない部分を探します。

※「x」は、「なぜ『〜』か」というように設問が指定している場合もあります。

Ⅱ 論証部の発見

飛躍を埋める部分が論証部となります。「A→x」のAの説明を求めましょう。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Ⅲ 「論証」のフレームワーク

① 「単純な論証」　A → B

根拠Aから主張Bが導かれている。

例文　A子ちゃんは美人だ。　　根拠　A

したがって、導出 ←

私はA子ちゃんが好きである。　　主張　B

※実はこの導出に必要な前提として、「私は美人が好きだ。」というものがあります。
これは「隠れた前提」として筆者の論証が成り立つように補ってやる必要があります。
筆者の論証が成り立つように隠れた前提を補うというルールを「**寛大の原則**」といいます。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

② 「論証の連鎖」　A → B → C

主張Aが根拠Aとなって主張Bが導かれ、その主張Bが根拠Bとなって主張Cが導かれる。

例文　A子ちゃんは目鼻立ちがはっきりしている。　主張A＝根拠A

したがって、導出 ←

A子ちゃんは美人だ。　主張B＝根拠B

したがって、導出 ←

私はA子ちゃんが好きである。　主張C

※この形が「論証」の中では一番多いです。「論証」の最後に来る文が「主張提示文」になります。
その前の文は「根拠」となります。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③「結合論証」

主張AとBが組み合わさって一つの根拠を形成し、主張Cが結論付けられる。

B ＋ A
↓
C

例文

A子ちゃんは美人だ。　主張　A
＋　結合　＝　根拠
私は美人が好きだ。　主張　B

したがって、導出 ←

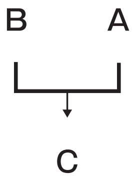
私はA子ちゃんが好きである。　主張　C

※23ページで説明した「隠れた前提」がある場合、この「結合論証」となります。
この形も「理由説明問題」ではよく出題されます。

※「Aのみ」「Bのみ」の解答は減点されます。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④「合流論証」



根拠Aだけでなく根拠Bもあり、主張Cが導かれる。

例文　A子ちゃんは美人だ。　根拠　A

また、

A子ちゃんは性格もよい。　根拠　B

したがって、導出　←

私はA子ちゃんが好きである。　主張　C

※この場合はどちらか片方だけでも「根拠」になります。
設問の場合には「理由を二つ説明せよ」となることが多いです。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Ⅳ　論証を捉えるヒント

Ａ　帰結の接続表現

「だから」「したがって」「よって」
「それゆえ」「ゆえに」
「それで」（「そこで」）

Ｂ　理由の接続表現

「なぜなら」「というのは（も）」
「けだし」「だって」

Ｃ　助詞など

「～から」「～ので」「～ため」「～より」「～のだ」「～のである」　→　「～」が原因・理由を表す

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

D　直接表現、比喩表現など

「理由」「原因」「結果」「帰結」「結論」
「～から生じる」「～に根ざしている」
「根源」「背景」など

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（次ページより問題演習）

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission

「なぜか」を攻略せよ！

第二講　傍線部理由説明問題　２０１０年文系第二問

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

私たちは確かに人間です。私たちは人間として生きています。しかし、(1)「本当に生きているか」と尋ねられると、あるいは、自分で自分に問う場合、「はい」とはっきり答えられるでしょうか。むしろ、「これでいいのか」と思うことがしばしばではないでしょうか。あるいは、「どこかおかしい、なにか間違っている」という感じがして、「人間であるとは一体どういうことか」、「本当に生きるとはどういうことか」という問が起こってくるのではないでしょうか。人間については限りない言葉が言われてきました。また、「真の人間」とはどういう人間か、「本当に生きる」とはどういうことか、についても限りない言葉が言われてきました。或る言葉が或る人に或るとき、深い感銘を与え、生涯の導きになるということは少なくありません。私は十年ほど前に、たまたま新聞で俳句のような短い子供の詩を読んで、深く感銘し、本当に生きるとはこういうことだと思われ、その句が心から離れなくなりました。それは、こういう句です。「秋深し

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

柿も熟した　おじいちゃん　死ぬな」。死に面して、死を通して、深い自然のなかで、共に生きる。私は、ここに「原宗教」とでも言うべきものを感じます。なにかあると、この句がくりかえし心に出てきて、私の存在を或る境地に誘います。あるいはまた、これが本当の人間だと感銘を受ける人間に実際に出会い、その人を模範にして生きるということもあります。私自身も長い人生のなかで男性女性少なくとも数名の名前をはっきり挙げることができます。完全無欠な人間ということではありません。それは理想的というより空想的です。そうではなくて、長い間一緒になにかをしてきて、或る具体的な問題にぶつかって、現実に現れるその人のあり方、仕方に感銘を受けて、実際に模範になったという意味です。

私たち人間は、人間であれば「人間である」のではありません。人間はしばしば人間でなくなります。非人間的になり、悪魔的にすらなります。日々報道され見聞する考えられないほどの恐ろしいことも、なさけないことも、しているのはすべて人間です。そのようなことをなしうる可能性が「人間であること」のうちに初めから備わっていると見なければなりません。「人間である」とは、人間でなくなるか、真の人間になるか、不安定な両義的可能性のなかにあって、どういう人間になるかが問われているということです。悪魔的にすらなりうる可能性まで見ますと、この両義性は

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission

「なぜか」を攻略せよ！

不気味な謎とも言えます。「人間とは恐ろしいものだ」という言葉が説得性をもつほどです。人非人という言葉もあります。しかし一方、真人間という言葉があります。「真人（しんじん）」という言葉もあります。また人間の実存面においては価値概念も善悪、真偽、迷悟というようにプラス／マイナスの一対になっています。人間に関して「真の」ということが言われなければならない所以があるわけです。「人間である」ことには、本来「真の人間」になるべき課題が含まれています。「真の人間」という特別な人間があるわけではありません。「人間である」ことの真実にかかわる問題です。

　私たち人間はおかしくなったり、でたらめになったり、迷ったり、間違ったりするだけでなく、悪質になったり悪辣（あくらつ）になったりします。それに気がついて、あらためて人間になる道、「人となる道」を歩む全プロセスが「人間であること」の実質になります。その際「それに気がつく」のは、人間について経験する経験にもよりますが、なによりも根本的には、自覚の働きです。自覚は自己理解や自己認識とは質的に異なり、当の人間が自分において二重に現れてきます。「(現に)ある自分」と「あるべき自分」と。そしてそこに自己実現ないし自己転換の要求が含まれています。しかし自覚に関しても、人間であれば人間としての自覚があるのではありません。人間は往々にして無自覚のままです。自分についての意識はあらざるをえ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

ませんが、多くの場合自意識になってしまいます。自意識はすべてのものを自己関心によって歪めて写します。自意識は意識の癌と言わなければなりません。自意識は根本的に自閉的です。それに対して自覚は目覚めです。ほとんどの場合、人間に出会って人間に目覚めます。これが本当の人間だと感じられ思われる人間に出会って、その人に接して、その人から人間であることを学びつつ、人間として養われてゆきます。昔から「或る人に親炙する」という言葉がある所以です。「人間とは何か」は、当の人間にとっては、定義の問題ではなく、「どのような人間になるか」という実存問題に対してどのような人間が模範として出会われるかにかかっています。その出会いは、出会いであるかぎり、あくまで与えられるものであって、こちらから差配することはできません。しかし単に偶然にではなく、こちらに求めるところがなければ、与えられません。それも単に外に求めるのではなくて、「これでいいのか」、自分自身に行き詰まって「どうしたらいいのか」という問に自分がなっているという窮地が、真に求めていることのリアリティです。

　そのような出会いと交わりにおいて人間は、人間から、人間であることを学びつつ、人間として養われてゆきます。人間は、人間に、人間であることを教えつつ、人間を育ててゆきます。この全プロセスが「人間である

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
「なぜか」を攻略せよ！

こと」に属しています。教育ということ、狭い意味の学校教育だけではなく（2）「教える」／「学ぶ」ということが「人間であること」に本質的である所以がここにあります。人間であるかぎり、生涯、教育ということが課題になります。この「教える」／「学ぶ」には訓練ということが欠かせません。訓練は単なる学習でもなく、練習でもありません。きちんと坐る、きちんとお辞儀をするというようなごく単純な訓練であっても、その要は人間形成ということ、あるいは「行（ぎょう）」とすら言えることです。この最も単純にして基礎的なことがゆるがせにされ、無視されると、その結果は簡単には直せないような人間の状態を惹（ひ）き起こすことになります。それにもう一つ特に注目したいのは、歴史的に特別な事態として現代の生活文明には本質的に人間を非人間化する傾向があるということです。それだけに、「人間であること」を単純素朴な基礎からたどり直して考察し反省し考慮し実践することが大切だと思います。根本問題は「人間である」ということ、それはどういうことかに尽きます。

（上田閑照「宗教とは何か」より）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　傍線部（1）のように筆者が考えるのはなぜか、説明せよ。

問二　傍線部（2）のように筆者が考えるのはなぜか、わかりやすく説明せよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　傍線部理由説明問題　講義のまとめ

「なぜか」の問題とは

←

① 文構造（[①]、[②]）の分析ができているか

② [③]を分析し、その[③]を埋める[④]を読めるか

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　傍線部理由説明問題

２０１０年前期文系第二問　上田閑照「宗教とは何か」

要旨

私たちは確かに人間として生きているが、「人間であるとは一体どういうことか」「本当に生きるとはどういうことか」という問いが起こってくる。私たちは人間であるが、しばしば人間でなくなる。そこに気がつくのは、現実の自分と理想の自分を知る自覚の働きによってである。模範となる人に出会って、自覚は目覚める。そして、真の人間になりたいと望むのである。現代の文明には本質的に人間を非人間化する傾向がある。したがって、真の人間になるために模範となる人から学び、かつ自ら他者の模範となる教育ということが課題となる。

解答

問一

「本当に生きているか」という問いは、非人間的存在になるのか、または真の人間になるのかの両義的可能性の中で、真の人間として生きているかを問うものであるから。

解答ポイント

①「本当に生きているか」という問い
②ａ非人間的存在になるのか、または真の人間になるのか
　の両義的可能性の中で
　ｂ真の人間として生きているかを問う

問二

「教える」／「学ぶ」ということは模範となる人との出会いによって現実の自分と理想の自分を二重に自覚し、その自覚によって人間が真の人間にも非人間的にもなりうることに気づき、真の人間になろうとして模範となる人から学び、かつ他者の模範となるまでの全プロセスであり、人はそのプロセスを経ることではじめて真の人間となるから。

解答ポイント

①模範となる人との出会い
②現実の自分と理想の自分を二重に自覚
③自覚によって人間が真の人間にも非人間的にもなりうる

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ことに気づき

④　真の人間になろうとして模範となる人から学び

⑤　他者の模範となる

解説

問一　傍線部理由説明問題

　傍線部の飛躍を埋める論証をする問題である。傍線部を分析すると「『本当に生きているか』と尋ねられると、あるいは、自分で自分に問う場合」という部分と、「『はい』とはっきり答えられるでしょうか」という部分の間に飛躍がある。その飛躍を埋める説明を本文に求める。

　まず傍線部の直後を見ると、①「本当に生きているか」と問うと、「これでいいのか」や「人間であるとは一体どういうことか」「本当に生きるとはどういうことか」という「問」が起こってくる。

　そして、「人間である」「人間として生き」るとは、第二段落にあるように②「『人間である』とは、人間でなくなるか（＝Pか）、真の人間になるか（＝Qか）、不安定な両義的可能性のなかにあって、どういう人間になるかが問われているということ」である。この文から、「PまたはQ」という可能性があることがわかる。「PまたはQ」はPかQか少なくともどちらか一方が真であるということを示しているだけなので、Qであると結論することはできない。したがって、「『はい（＝Q）』とはっきり答えられない」のである。

　以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

問二　傍線部理由説明問題

　傍線部の飛躍を埋める論証をする問題である。傍線部を分析すると「『教える』／『学ぶ』というそのことが」という部分と、「『人間であること』に本質的である」という部分の間に飛躍がある。その飛躍を埋める説明を本文に求める。

　まず①「学ぶ」とは第四段落一文目にあるように「そのような出会いと交わりにおいて人間は、人間から、人間であることを学びつつ、人間として養われて」ゆくということである。そして「教える」ということは第四段落二文目にあるように「人間は、人間に、人間であることを教えつつ、人間を育て」るということである。そして「この全プロセス」が「人間であること」に属している。しかし、ここにまだ飛躍があるので、「この全プロセス」を説明しなければならない。

　次に、「この全プロセス」を説明するために、今捉えた部分に含まれる「そのような出会い」の指示内容を求める。す

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ると第三段落十五文目①「これが本当の人間だと感じられ思われる人間に出会って」という部分に説明がある。そして、第三段落十四文目にあるように、そのような人間に出会ってはじめて、②「(現に）ある自分」と「あるべき自分」という二重の自分を「自覚」する（＝目覚める)。そして、第三段落三文目にあるように、この「自覚」によって、人間は③「真の人間」にも「非人間的」にもなりうることに「気がつく」。そして第三段落二文目にあるように、「真の人間」にも「非人間的」にもなりうるということに「気がつい」たら、④「人となる道」を歩む、つまり模範となる人から「真の人間」であることを学ぼうとする（＝「学ぶ」)。そして、⑤今度は自分が他の人の模範となる(＝「教える」)。「この全プロセス」が「人間である」ことに必要な本質である。したがって、「『教える』／『学ぶ』というそのことが」が「『人間であること』に本質的である」と言える。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。